

# アヒルの 子と

## まる た 丸太

ある 静かな 池の ほとりの 小さな 巣の 中で、アヒルの  
お母さんが 卵を 温めていました。お母さんアヒルは、  
来る 日も 来る 日も、卵が かえるのを 待っています。  
そして、ついに その 日 が やって 来 ました。かわいらしい、  
ふかふかの 黄色い アヒルの 子 が、一つの 卵の 中から  
飛び出してきました。続いて もう 一羽、また 一羽と、卵は  
かえりました。三羽の かわいらしい アヒルの 子 を 見て、  
お母さんは 大喜びです！

最初、アヒルの 子 たちは よい 子 で、お母さんの  
言いつけも よく 聞き、なかよく 遊んで いました。ところが、  
しばらく たつと、三羽の アヒルの 子 たちは、お母さんの  
言いつけを 守る ことよりも、自分勝手な こと を したがる  
よう になりました。そして、ケンカばかり する ように なって  
しまいました。お母さんアヒルは、困って しまいました。  
かわいい わが子 たちが、今では みにくい 争い事ばかり  
しているなんて！



ある <sup>は</sup> 晴れた <sup>ひ</sup> 日の <sup>こと</sup> です。お母さん <sup>かあ</sup> アヒルと  
子どもたちは、近くの <sup>ちか</sup> 沼へ <sup>ぬま</sup> 行く <sup>い</sup> ことになりました。  
で <sup>ま</sup> かける <sup>まえ</sup> 前に、お母さん <sup>かあ</sup> アヒルは <sup>こ</sup> 子どもたちに、  
その <sup>ぬま</sup> 沼には <sup>きけん</sup> 危険があるけれど、ちゃんと <sup>かあ</sup> お母さんの  
そばに <sup>ついて</sup> いるなら <sup>だいじょうぶ</sup> だいじょうぶだと、<sup>い</sup> 言って  
<sup>き</sup> 聞かせました。

<sup>みず</sup> 水辺まで <sup>く</sup> 来ると、アヒルの <sup>こ</sup> 子たちは <sup>こう</sup> ぶんを  
おさえきれませんでした。

「<sup>み</sup> 見て、たくさんの <sup>まる</sup> 丸太が <sup>みず</sup> 水に <sup>う</sup> っているわ。  
<sup>の</sup> 乗っかって <sup>あそ</sup> 遊んだら、きっと <sup>おもしろ</sup> おもしろいわよ。」  
<sup>いち</sup> ばん <sup>ちい</sup> 小さな <sup>こ</sup> アヒルの <sup>い</sup> 子が <sup>い</sup> 言いました。

「<sup>まる</sup> 丸太の <sup>うえ</sup> 上になんか、<sup>の</sup> 乗れるもんですか。  
<sup>ある</sup> 歩いてても <sup>つま</sup> ずいてばかり <sup>いる</sup> いるのに。」  
そばの <sup>いち</sup> 羽が <sup>く</sup> クスクス <sup>わら</sup> 笑いました。



「あなただって、うまく乗れるとは思わないわ。」

もう一羽がつぶやきました。

「お母さん、丸太のところにいってもいい？」

一羽がたずねました。

「まずは、沼の向こう側まで行ってみましょう。

安全かどうか、確かめるのよ。ついてらっしゃい。」

お母さんアヒルは水の中に入り、できるだけ

丸太からはなれて泳ぎました。一羽がお母さんの

すぐ後に続きます。もう一羽は後からのろのろついて

行きました。けれども、いちばん小さなアヒルの子は、

一人で池を探検することにしました。

（お母さんについて行くなんて、たいくつだわ。わたし、

探検して来ようっと。） そう考えたのです。

そして、のろのろついて行くもう一羽のアヒルの

子をよびました。そして二羽は、丸太だと思っていた

ものに向かって泳いで行きました。ところが、そばまで

行くと、その丸太が動き始めたのです。

「うわ、これ何!？」一羽がさげびました。

「そんな気の小さなこと言わないでよ。水の

流れで丸太が動いているだけじゃない。」もう

一羽が言いました。



けれども、それは ちがっていました。アヒルの<sup>こ</sup>子は、  
<sup>ひる</sup>昼ねの じゃまを されて おこっている <sup>いじわる</sup>意地悪そうな  
ワニと、<sup>かお</sup>顔と <sup>かお</sup>顔とを <sup>あ</sup>つき合わせてしまったのです。

「<sup>かあ</sup>お母さん、<sup>かあ</sup>お母さん！ <sup>たす</sup>助けて！」 <sup>にわ</sup>二羽は  
<sup>おおごえ</sup>大声で <sup>な</sup>泣きさけびました。そして、<sup>む</sup>無我<sup>が</sup>夢中<sup>で</sup> <sup>きし</sup>岸に  
<sup>む</sup>向かって <sup>およ</sup>泳ぎ<sup>はじ</sup>始めました。

カプッ！ ワニの <sup>おお</sup>じょうぶな <sup>おと</sup>あごが、大きな 音を  
たてました。

ぎりぎりの ところで、<sup>にわ</sup>二羽は <sup>ぬま</sup>沼から <sup>あ</sup>上がる ことが  
できました！ ワニは、<sup>お</sup>追いかけるのも <sup>めんどうだ</sup>と、  
<sup>む</sup>ゆっくり <sup>か</sup>向きを <sup>ぬま</sup>変えて、<sup>なか</sup>沼の <sup>い</sup>中にもどって行きました。

<sup>かあ</sup>お母さんアヒルが <sup>ご</sup>まい子の <sup>こ</sup>子どもたちを <sup>み</sup>見つけた  
<sup>とき</sup>時、<sup>にわ</sup>二羽は <sup>からだじゅう</sup>体中、ブルブル ふるえていました。

「<sup>みちくさ</sup>道草して <sup>じぶん</sup>ごめんなさい。自分は よく わかって  
いるなんて、<sup>おも</sup>ぜったいに <sup>おも</sup>思うべきじゃ <sup>な</sup>なかったわ。」  
<sup>ちい</sup>いちばん <sup>こ</sup>小さな <sup>い</sup>子が、ベソを かきながら 言いました。

「わたしも。」 <sup>いちわ</sup>もう <sup>い</sup>一羽も 言いました。



「二羽とも無事で、本当によかったわ。言いつけを  
守るのがどんなに大切なことか、分かってくれたかしら。  
あなたたちに何かあったら、お母さんはとっても  
悲しくなるもの。」

「もうぜったいに勝手なことをしないで、  
約束します。」アヒルの子たちは、声をそろえて  
言いました。

その日からというもの、アヒルの子たちは、  
お母さんの言うことをちゃんと聞き、従うように  
なりました。そして、大きくなるまで、とても幸せな  
日々をいっしょに過ごしました。その後は、自分の  
子どもたちにも、従うことの大切さを教えたのでした。

**教訓：**神様は、聞き従うことを祝福して下さいます。  
言いつけをきちんと守るなら、神様はあなたを危険から  
守ることができます。ですから、ほかの人に対して  
やさしくし、言いつけを守りましょう。正しいことを  
していれば、とても幸せな時が過ごせますよ。

